

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年3月29日

学校法人正和学園
御中
幼保連携型認定こども園町田自然幼稚園

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野		
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
	②	H0901090	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
福祉サービス種別	認定こども園				
評価対象事業所名称	幼保連携型認定こども園町田自然幼稚園				
事業所連絡先	〒	194-0035			
	所在地	東京都町田市忠生2-7-5			
	TEL	042-791-0015			
事業所代表者氏名	齋藤 謹也				
契約日	2023年	9月	1日		
利用者調査票配布日(実施日)	2023年	12月	4日		
利用者調査結果報告日	2024年	2月	26日		
自己評価の調査票配布日	2023年	12月	4日		
自己評価結果報告日	2024年	2月	26日		
訪問調査日	2024年	3月	4日		
評価合議日	2024年	3月	4日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。				

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき ・こども中心 ・いま、ここ、すぐに ・ホンモノの体験を通した学び ・自然環境を活かした学び
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>朗らかで、常にワクワクした気持ち、好奇心を持ち続ける。広い視野で物事をとらえ、様々な出来事に意欲的かつ前向きに取組み、柔軟に対応する。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>こどもと一緒に探究する姿勢。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯319(在籍児童数358)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	358
利用者家族総数(世帯)	319
共通評価項目による調査対象者数	319
共通評価項目による調査の有効回答者数	145
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	45.5

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」33.8%・「満足」49.0%の計82.8%で、設問別では「急な残業等への配慮」「子どもの教育や心身の発達に役立つ活動」「身近な自然や社会との関わり」など、全18問中10問で80~90%台の高い支持を得ている。

自由意見では「延長保育や一時保育などを気軽に利用でき、給食も普段家庭では作らないメニューが多くてありがたく、自然の中で思いきり遊んだり、陶芸、寺での体験等々、他園では経験できないような活動もとてもよい」「自然豊かな中でいろいろな体験ができ、上下のクラスの子たちとの関わりもあってたくさん刺激を得られ、給食にも力を入れており、子どももよくおかわりしている」「子ども中心の「いきいき」という教育方針にとっても魅力を感じ、先生方は共通して子どもたちの「いきいき」を見守り、活動内容や職員の振る舞いなどを見ても、そのねらいが園内で統一されているのがよくわかる」「自然の中で遊ぶ、子ども主体の方針は素晴らしい」など、さまざまな感謝や称賛の声が寄せられている。

さらなる向上を望む意見としては、行事や日常の教育・保育、情報発信や職員の体制、安全・保健面や設備、職員の対応に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	121	19	5	0
<p>実質的な満足度（「無回答・非該当」を除いた割合・以下同）は、「はい」が83.4%、「どちらともいえない」が13.1%、「いいえ」が3.4%となっている。</p> <p>自由意見は38件で、「親だと服の汚れや洗濯を想像して止めてしまう泥遊びなども、興味を示せば止めずに遊ばせてくれ、自然を通して楽しく遊んでいるようだ」「園内が広く、外遊びも中遊びもブロックなども多く、充実している様子だ」「好きな遊びや歌も覚えて楽しそうだ」などのほか、日常の保育内容や、個々の状況に応じた活動について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	130	12	3	0
<p>「はい」が89.7%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が2.1%となっている。</p> <p>自由意見は38件で、「自然のものを使って遊んだり、実際に見て触ったりすることをとても楽しんでいる」「子どもたちの意見を聞いてその日の活動を行ってくれるので、興味が広がり、経験を増やしている様子を感じられる」「ゲストティーチャーとの経験や、白菜漬け、梅干し作り等のいろいろな体験が、本人にとってもよい刺激になっていると思う」などのほか、集団での活動や取組の機会などについて、さらなる充実を望む声が見られる。</p>				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	124	19	1	1
<p>「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が0.7%となっている。</p> <p>自由意見は29件で、「歌やダンスが好きで、先生が教えてくれたことを家で思い出して遊んでいる」「初めは興味がなく、やりたがらなかったことも、だんだんと興味を持ち楽しんで行うようになった」「イベントに向けてクラスで話し合ったりすることも多く、子ども主体で物事を進めている様子だ」などのほか、興味・関心を引き出す教育・保育活動や、取組の機会の確保などについて、さらなる工夫を望む内容が寄せられている。</p>				
4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	125	12	6	2
<p>「はい」が87.4%、「どちらともいえない」が8.4%、「いいえ」が4.2%となっている。</p> <p>自由意見は49件で、「だしを大切にしている印象を受け、絵本をテーマにした食事など、子どもたちが楽しくなるような献立で感心した」「家庭では食べてくれないメニュー等も、園では食べてきてくれるので助かっており、おやつも素材がナチュラルなものが多く、安心して食べる」「自分で少なめと申告したり、おかわりに行ったりしているようだ」などのほか、メニューや食材、食事・おやつ提供量などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	129	16	0	0
<p>「はい」が89.0%、「どちらともいえない」が11.0%となっている。</p> <p>自由意見は32件で、「園庭は緑が多く、春夏～秋冬の木の実まで実際触って味わえて、ドングリを拾ったり、葉っぱもいろいろで四季を感じられ、寺の行事も日本らしさを感じられていると思う」「園外のいろんな方を招いたり、野菜や米作り等、他園より充実していると思う」「近場を散歩したり、皆で種等を買って物に行ったりなど、店や地域の人々とのふれ合いもあり、とてもよいと思う」などのほか、行事等の充実や、課外活動への参加機会の確保を望む声が寄せられている。</p>				
6. 保育時間の変更が急ぎょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	127	3	0	15
<p>「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。</p> <p>自由意見には「本当にフレキシブルに対応してくれ、頭が下がる思いで、働く親にとって、園の丁寧な対応は大きな支えだ」「病院などで時間が遅くなっても、電話をすると快く受け入れてくれ、「焦らないで、気をつけてきてください、大丈夫ですよ！」と優しい声かけまでしてくれ、いつも感謝している」「急な予定で急遽預かりをお願いした時、快く預かってくれ助かった」「時間外を利用する際はアプリで入力できるよう対応してくれて助かる」など19件が寄せられている。</p>				

7. 安全対策が十分取られていると思うか	86	41	18	0
<p>「はい」が59.3%、「どちらともいえない」が28.3%、「いいえ」が12.4%となっており、「はい」の値は前回(2020年度・以下同、44.6%)から改善されている。</p> <p>自由意見は43件で、「数年前に正門が強化され、どの門にも鍵がかかっており、結構しっかりしていると思う」「男性の先生も多いので安心だ」「小さなケガでも報告してくれるので、安心している」「避難訓練などちゃんとしている」などのほか、保育中の安全対策や設備面、外部侵入対策、感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	112	22	8	3
<p>「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が15.5%、「いいえ」が5.6%となっており、「はい」の値は前回(67.3%)から改善されている。</p> <p>自由意見は32件で、「行事は土曜日が多く、平日仕事を休まなくてよく、助かっている」「保護者会がオンラインだったのがよく、行事も半日なので、負担なく参加できる」「行事は4月の時点で日程がわかっているので調節しやすい」などのほか、行事の日程の設定、日程等の連絡などにおける各家庭への配慮、行事実施の頻度等について、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	98	40	6	1
<p>「はい」が68.1%、「どちらともいえない」が27.8%、「いいえ」が4.2%となっている。</p> <p>自由意見は41件で、「小さいことでも親身に対応してくれて安心・信頼でき、『何でも言ってくださいね』とってもらえるので、話しやすいほか、皆いつもにこにこして挨拶してくれる」「担任の先生以外もたくさん先生の先生が子どもたちの名前を覚えてくれていて、皆が声をかけてくれる」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告、コミュニケーション機会の確保、職員の対応などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	99	37	9	0
<p>「はい」が68.3%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が6.2%となっている。</p> <p>自由意見は29件で、「いつも掃除されていてきれいだ」「たまにしか園には行かないが、整理されている印象だ」「園庭にゴミ箱があり、ゴミを見つけたら鼻を自分でかんだら捨てられる環境がよいと思うほか、亀の池もきれいになり、ピオトープも昔よりきれいになって見ていて気持ちがよい」などのほか、清掃・整理整頓や衛生管理、感染症対策等について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
11. 職員の接遇・態度は適切か	122	19	4	0
<p>「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が13.1%、「いいえ」が2.8%となっている。</p> <p>自由意見は28件で、「どの職員もすれ違うと元気に挨拶してくれ、職員の自由な髪色なども個性が見られてよいと思う」「個性それぞれの先生方がいるが、どの先生も笑顔と挨拶が素晴らしかった」「皆笑顔できちんとしていると感じる」などのほか、職員の保護者・子どもへの言葉遣いや挨拶・接遇、身だしなみ、職員間の情報共有や指導体制等について、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	118	19	4	4
<p>「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が13.5%、「いいえ」が2.8%となっている。</p> <p>自由意見は25件で、「些細なことでも電話してくれるのでありがたい」「ちょっとしたことですぐ電話をくれ、以前園児の嘔吐物の処理をしているところを見かけたが、専用のビニルスモックを着て対応しており、安心感があった」「ケガをした時に、電話やバス担当からの連絡、連絡帳での連絡と、いろいろな先生が見てくれていて安心感がある」などのほか、ケガや体調変化等の把握・対応、保護者への連絡等について、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	89	36	2	18
<p>「はい」が70.1%、「どちらともいえない」が28.3%、「いいえ」が1.6%となっている。</p> <p>自由意見は32件で、「双方の話をよく聞いていると思う」「すぐに当事者同士の話し合いを仲介してくれるようで、その場で仲直りできたと子どもが言っていた」「大きな問題はないが、何かあれば担任に相談させてもらい、その後こまめに様子を見て連絡してくれたりするので、安心している」などのほか、「そういった場面がなかったのでわからない」や、子ども同士のトラブル等の把握、トラブル発生時の対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				

14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	119	22	2	2
<p>「はい」が83.2%、「どちらともいえない」が15.4%、「いいえ」が1.4%となっている。 自由意見は20件で、「〇〇先生大好き！」とよく言っているので、寄り添ってくれていて子ども先生方を信頼しているのだと思う」「無理強いせず、寄り添ってくれている」「どの先生も子どもの気持ちを一番に考えてくれていると感じている」などのほか、子どもの気持ちを大切にされた対応、保育者の子ども一人ひとりへの関わりや目配りなどについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	105	18	1	21
<p>「はい」が84.7%、「どちらともいえない」が14.5%、「いいえ」が0.8%となっている。 自由意見は9件で、「けんかをして、他の親に相手の名前を教えないところはよいと思う」のほか、「そのような場面は今のところない」との声や、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む内容が見られる。</p>				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	99	35	9	2
<p>「はい」が69.2%、「どちらともいえない」が24.5%、「いいえ」が6.3%となっている。 自由意見は23件で、「日々ストーリーパークやファイル、時に連絡帳などで知らせてもらっている」「保育内容など、日々発信してくれている情報は参考にしている」「保護者会やプリントなどで適宜説明やお知らせがあるので、理解しやすい」「保護者会時に1年分の教育指針のようなものをくれる」などのほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容、決定・変更事項等に関する保護者との共有等について、さらなる工夫を望む声が寄せられている。</p>				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	97	26	5	17
<p>「はい」が75.8%、「どちらともいえない」が20.3%、「いいえ」が3.9%となっている。 自由意見は19件で、「最後まで話を聞いて、即対応してくれる」「すぐ対応してくれる」「不満に思ったことがないが、伝えれば考えてくれるという安心感がある」などのほか、保護者の不満・要望等への対応や伝えやすさ、組織内の情報共有などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。</p>				
18. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	56	27	19	43
<p>「はい」が54.9%、「どちらともいえない」が26.5%、「いいえ」が18.6%となっている。 自由意見は9件で、「転職の際に相談したが、市役所の方を紹介してくれ、相談することができた」「幼稚園の案内冊子に記載がある」「そのような機会がなく、わからない」のほか、外部の意見窓口の周知等について、さらなる配慮を望む内容が見られる。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	基本理念・保育方針等、法人共通に目指すものの保護者や職員との共有に努めている 法人の基本理念「いきいき」・保育方針「こども中心」など、経営・運営や教育・保育の提供にあたっての法人の指針を示す理念・方針等を、保護者には見学・入園時の説明や園便り・学年便りへの記載などによって示している。また各種媒体や保護者会・懇談会等を通じて、前述の理念・方針等の実践となる日々の教育・保育やこどもたちの姿を保護者と共有している。職員には入職時及び以降の法人による研修により、継続的な周知を図るとともに、園内で日々さまざまななされる会議での話し合いにより、実務に根差した共通理解の形成が促されている。 経営層がそれぞれの職責のもとで運営を統括し、現場との園の方向性の共有に努めている 園長・副園長・各主任及び法人理事長が、園の運営全般や意思決定における経営層としての統括を行っている。また当園を含む法人内の各施設の主任以上者が集う毎月の管理職会議で、法人・各施設の経営・財政面や教育・保育などの状況を共有し、園における種々の方針を現場に発信している。法人共通の命題とする、今後の地域や社会の人口構成の変化への対応として、子育ての担い手から地域全体を支えるコミュニティの拠点へと、園の担うべき役割を進化させることを目指し、そのための環境・基盤整備や組織としての方向性の共有を課題と考えている。 各種案件の検討・決定と、必要な情報を職員や保護者に周知させる手順が整えられている 毎月正規職員が集う職員会議と、経営層とカリキュラムコーディネーターによる随時の会議を設け、園における種々の施策・方針は、各会議の相互の連携のもとで検討・決定し、欠席者などには議事録・資料や毎日の終礼などを通じて決定事項などを周知させている。職員自己評価では労働環境面で現場から課題も示されており、働き方や休暇取得などに関する法人の認識と現況について、職員との相互理解をさらに深め、帰属意識の向上につなげたいと考えている。保護者にはアプリでの配信を基本に、必要に応じ書面も併用し、各種の重要な連絡事項を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
実践的な計画策定に取り組んでいる		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
法人の5か年の計画のもとで年度の事業計画を作成し、実行と進捗管理がなされている 法人全体の事業推進や組織・財政運営等について、「いきいき社会中期経営プラン」に来年度まで5か年の関する方針・目標と、各分野の実行項目及び年度ごとの進捗の指標を定めている。これをもとに園の事業計画を策定し、今年度は保育・食育や自然保育の質の向上、そのための環境整備や地域との協働、一時預かり事業の推進などを重点項目として、四半期ごとの取組項目と定性・定量両面の目標、担当者などを定めている。計画の実行状況は前述の目標に照らし、実績をもとに各期末に評価を行い、毎月の法人内の管理職会議でも事業報告がなされている。		
保護者や職員の意向、地域の状況や行政の政策・制度などの動向の把握に取り組んでいる 保護者全体の意向を、定期的な保護者会・懇談会での傾聴や行事後の感想収集などから把握するほか、職員の意向は各学期及び随時に行う経営層との面談、日々の各会議や業務内外の会話などから把握している。また子育てや教育・保育などにおける地域の状況を、入園前見学や後述の「はつはなひろば」をはじめとする各種子育て支援で来園する未就園世帯、市内の教育・保育施設関係者が集う各種会議などを通じて把握している。これらに関連する行政の制度・政策の情報は、前述の市内の会議のほか、自治体や各種団体の発信物、各種報道などから収集している。		
実務を含む計画作成・実行の体制を整え、法人が園と連携して経営状況を管理している 教育・保育や行事、防災・安全など、日々行われる現場の実務についても、年間及び各期間の計画に取組内容や目標・ねらい等を定め、計画の期間や取組に応じた進捗確認のもとで実行している。また上述の保護者・職員の声や事業環境の状況など、把握された種々の情報を課題抽出の参考とするほか、事業計画の各重点課題とも関連する各活動を行う、職員参画の各委員会を組織内に設けるなど、計画推進の体制を整えている。園の予算の作成や収支・稼働率等の経営状況の管理は法人が主に行い、実務上必要な支出をえんが実行・管理する仕組みとなっている。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>すべてを「こども中心」に考え、行動する組織づくりに必要な倫理観の共有に努めている</p> <p>新入職者への基礎教育や毎年度の法人の全体研修会の際に、「町田自然幼稚園の職員として」や法人共通の「すごしかた」等をもとに、身だしなみ・接遇マナーや保護者・職員その他との公私の別をわきまえた関わり、「報・連・相」や機密保持など、職員に求める規範・倫理に関する啓発を行っている。またこどもへの不適切な保育の防止を目的に、国の例示するセルフチェックリストによる内省と会議での話し合いにより、各人の日頃のこどもに対する言動の振り返りをもとに、組織の認識の共有を図るなど、保育方針とする「こども中心」の徹底に努めている。</p> <p>苦情を含む保護者の多様な意向への対応や、虐待等の早期発見・防止に取り組んでいる</p> <p>園の玄関に「ご意見ポスト」を設置し、苦情解決制度について、保護者へ入園時に周知を図っている。これらの仕組みや日々のコミュニケーションを通じて保護者の意向の把握に努め、個別の相談対応や行政機関と連携した相手方との共通理解の形成など、案件に応じた適切な対応に取り組んでいる。家庭での虐待・育児困難等の事案には、関係職員間で情報を共有し、行政機関のほか、案件に応じて対象児のきょうだい児が在籍する教育施設とも連携し、対応にあたっている。早期発見のためのチェックリストや通報の流れなどを示すマニュアルも常備されている。</p> <p>地域の子育てと福祉を支えるべく、園の資源を積極的に提供し、貢献に取り組んでいる</p> <p>地域向けの掲示板や法人の各種ウェブ媒体・町田市などを通じた情報発信、実習生やボランティア・職場体験生の積極的な受け入れなど、地域に開かれた園であるべく取り組み、市内の教育・保育機関が集う各種会議、地区内の福祉・子育てや家庭支援などに関する懇談会・会議を通じ、地域の共通課題の検討にも関わっている。また園庭開放や多様なテーマの育児講座、出前保育や給食体験など、子育て家庭に園の資源を提供する「はつはなひろば」、法人内の他園と連携して市内の拠点で行う「おやこつながりくらぶ」など、地域貢献にも意欲的に取り組んでいる。</p>		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
			5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当	
カテゴリー4の講評			
<p>災害・不審者や保健面の緊急時対応への備え、バス運行時の安全確保に努めている</p> <p>災害・感染症を想定したBCP(業務継続計画)を作成するほか、毎月避難訓練を実施し、保護者とのこどもの引き渡し時の連携を含め、災害時の対応を確認している。また園内への侵入を想定した不審者対策訓練を毎年度設けるほか、応急処置やAED、エビベン対応など、緊急時の対応に関する看護師の指導もなされている。こどもの睡眠時の状態確認や夏場の戸外活動の自粛など、日常的なSIDS・熱中症対策にも取り組むとともに、バスでのこどもの送迎時の置き去り等を防ぐ、人数確認の徹底や車内への警告ブザー設置などの対策も講じている。</p> <p>こどもの危険への感性を育てつつ、事故を防ぐための事例の検証等にも取り組んでいる</p> <p>危険から身を守る知恵や感覚を、こどもが体験を通じて自ら学ぶことも重視し、起伏やさまざまな自然物のある園庭、外部の専門家とのこどもの自然体験など、環境・活動両面で「仕掛け」を設けている。また日常の活動中に発生したこどものケガ等の事故は、受傷の度合などに応じ、検証と防止対策の検討を行い、安全の向上に活かしている。ヒヤリハットも各学年で把握した事例を毎日の終礼で共有するほか、担当委員会が集計・分析と改善策の検討を行い、毎月の職員会議で報告している。発生した事故も同様に検証や分析の精度を高めることを一考されたい。</p> <p>各種情報の管理と利用に関する仕組みや環境を整え、漏洩等を防ぐ各種措置を講じている</p> <p>端末機器やソフトウェアの使用時のログイン制限、職位等に応じた情報アクセス権限の設定や、機密性に応じた書類の施錠管理など、各種情報の漏洩や不正利用を防ぐための措置を講じている。また就業規則や法人共通の「すごしかた」に、各種情報の取り扱いや機密保持に係る基本原則、実務上の具体的な禁止・遵守事項を定め、職員には入職時の研修と誓約書の提出により、徹底を促している。実習生等には活動開始前のオリエンテーションを通じて守秘義務の厳守を求め、保護者には入園時の重要事項説明の際に、個人情報の利用目的などが伝えられている。</p>			

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当
カテゴリー5の講評			
<p>人材の確保と園内の状況に即した人員配置、労働環境の各種整備に取り組んでいる</p> <p>法人が各公式ウェブ媒体や養成機関・採用関連業者などを通じ、傘下の各事業所の職員の募集・採用を行い、配属・異動は法人内の責任者の合議により、各人の意向・キャリア形成や各事業所の体制の状況等を考慮して決定している。園内では各職員の意向を把握したうえで、それぞれの経験や望まれる役割・成長、チームとしてのそれらのバランスなどのほか、進級時の担任継続による教育・保育の安定なども考慮して担任を配置している。各種の労務管理や産業医との連携、ストレスチェック実施など、法人共通の労働環境面の各種整備もなされている。</p> <p>職員の成長・キャリア形成の指標や、研鑽の予定・実績の管理の仕組みを整備している</p> <p>入職や法人の全体研修の際に職員に示される法人の「キャリアパス&ライフプラン」に、年代ごとに想定される複数のキャリア段階と、階層・職位ごとの任用条件・研鑽の目安、ライフステージの推移と活用可能な法人の制度などを図示している。また「研修受講計画」に、各職員の研修受講の予定を一覧化し、実績を別の書式で毎月管理するとともに、各学期に経営層が行う個別の面談では、各人の近況や意向のほか、期待する能力発揮と成長、現状の課題なども話し合われている。これらの育成に関する各人との対話を記録し、目標管理に活かす工夫も期待したい。</p> <p>多様な分野で職員の研鑽や現場の改善を促し、若手の育成や組織力の向上にも努めている</p> <p>1・2年目職員を同世代の先輩が指導する「メンター制度」を設け、経営層が指導役職員の人選と支援を行っている。また外部の各種研修に職員を順次参加させ、必要な専門性の向上を促すとともに、特別支援・多文化教育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策など6分野の委員会活動を設け、国の処遇改善制度とも連動させ、職員の主体的な改善活動や特性の発揮を、処遇の向上にも活かしている。日々の会議ではこどものエピソードの共有や教育・保育、行事や安全面などに関する諸課題の検討がなされており、話し合いは同僚性の促進にもつなげられている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>昨年度の事業計画では、「いとなみの実践」「つながりの実践」「ひろがりの実践」の3つの分野で重点項目・取組内容及び定性・定量の各目標などを定め、四半期ごとの進捗の目安を設定して取組を行った。</p> <p>このうちつながりの実践の分野では、こどもたちの自然体験(「しぜんのじかん」)に職員もともに参加し、地域の自然環境を知ることで、こどもと自然環境との「つながり」を深め、活動の質を高めることを目標として、6月より随時実施した。</p> <p>しぜんのじかんは外部の専門家の助力を得ながら、こどもたちがさまざまな自然体験をする活動として行っているが、ともすれば大人側の主導となりがちであり、内容や体験も標準化する傾向が見られていた。こども主体・こども中心という活動本来の改めて共有し、園周辺の恵まれた自然環境をさらに活かしながら、こどもが主体となって取り組むさまざまな体験を通じた心身の豊かな成長を促すことを目指し、取組を行った。</p> <p>各人がこどもとしぜんのじかんをともに体験する日を園内研修と位置づけ、こどもたちの姿に触れながら活動を一緒に楽しむとともに、その報告として写真を交えた記録「ドキュメンテーション」を作成することとした。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>年間20回のプログラムのうち、6月から各回1名ずつ職員が参加する計画として、シフトの関係から7月より開始した。年間で計15回の参加実績があり、定量的な目標は概ね達成した。また参加後のドキュメンテーションを各職員が担当の学年・クラスで他の職員と共有し、活動でのこどもたちの様子や得られた体験・成長、その後の日常の実践への展開などについて、随時話し合いがなされている。</p> <p>経営層は取組を通じ、参加した職員がこどもたちの意欲や興味を引き出したり、ともに学び合う経験が重ねられ、大人を交えたこどもたちの関わりが、こどもの自然への多様な関心や心の成長、達成感にもつなげられたと考えている。また当初の目的とした、各職員が周辺の自然を知り、こども主体・こども中心という基本を再認識することについても、それぞれに多くのものを得たとらえている。</p> <p>今年度はそれらの成果も活かし、近隣の環境を活かした活動をさらに充実させ、しぜんのじかんに加え、季節を意識した身近な生き物との関わりや自然の中での遊びを多様に行い、そのエピソード記録の作成などにも取り組むことで、年間を通じて自然保育を行う意義を形にすることを目指している。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画のうち、上述の「ひろがりの実践」の分野では、一時保育利用者数の増加を目標とし、希望者を断ることなく受け入れ、活発な利用につなげるとともに、子育ての「かかりつけ窓口」として市が設ける「マイ保育園」制度における当園への登録や、園が行う他の子育て支援事業への参加など、付帯する取組との好循環にも結びつけることを目指した。地域内でも少子化と待機児童の解消は進んでおり、子育て世帯の多様なニーズに応え、園に対する認知と評価を高めることが、経営の持続性確保のうえで重要な課題となっている。また一時保育の利用は、その後の入園または施設選択の前段階として、園の教育・保育や環境に触れてもらう機会でもあり、一時保育利用者の増加は、財政面にも好影響が期待された。具体的な方策として、希望者が必要な時にすぐ利用できるよう、登録と予約をウェブ上で行える仕組みを整えるとともに、法人内の他の事業所と共通の登録とし、都合に応じて預け先を選択できるようにして、ニーズへのより柔軟な対応を図った。また利用者には定期利用への転換を提案し、継続的に園の教育・保育に触れてもらうことで、入園モチベーションの向上にもつながるようにした。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業計画では、一般型3,000人・定期600人を目標として、問い合わせには丁寧な対応を心がけるとともに、一時保育登録時には、希望者のニーズに沿った利用の仕方を設計・提案し、利用しやすく、また継続利用へのモチベーションも高まるサービス提供に努めた。利用実績は、一般型は2,084名と目標には届かなかったが、定期利用型は1,346名と目標を大幅に上回る利用を得た。また地域内での浸透も進んだほか、受け入れ年齢以外の0歳児や市外在住者の利用も一定数得られるなど、経営層は「誰でも利用できるこども園」としての基盤づくりにつながったと考えている。今年度の事業計画でも、一時保育利用者数の増加を重点項目としており、目標を昨年度比1,000人以上増・年間3,300人として、月あたりの目標数も設定し、引き続き利用の促進に取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/>非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>基本理念や保育方針、園の大切にすることなどをホームページ等で発信している</p> <p>園のホームページでは、基本理念「いきいき」や保育方針「こども中心」、5つの保育目標のほか、自然豊かな環境や地域の人材を活かした多様な活動と体験の広がり、暮らしの中にある食の営みなど、保育で大切にすることを象徴的な写真とともに紹介している。また、こどもたちはもちろん、地域の卒園生にとっても故郷のような存在であり続け、精神的なよりどころになるとの園の思いが表明されている。さらに園内空中散歩の動画と、園の概要をまとめたパンフレットを公開するほか、SNSを活用し、こどもの活動の一端や地域のイベント等を発信している。</p> <p>地域の方々への細やかな相談対応と、市の媒体も活用した情報公開を行っている</p> <p>園が行う多様な子育て支援情報は市の「子育てひろばカレンダー」に掲載され、地区の市民センター等で配布されるほか、「まちだ子育てサイト」には、園の基本情報、保育・教育の特色や主な行事、各種の費用や持ち物・準備物などの内容が紹介されている。また園のパンフレットや各種のイベントのチラシについては見学者等に配付している。園の地域担当の職員と専用ダイヤルを設け、地域向け「はつはなクラブ」の開催情報のほか、一時保育や入園相談会など、地域の方が求める内容や問い合わせに応じた情報提供と、幅広い相談対応・提案を行っている。</p> <p>見学希望者や入園を検討する方などへの多様な機会を提供し、園の説明を行っている</p> <p>入園個別相談や園見学を実施し、電話で予約を受け付けている。当日は園舎や園庭などの環境を案内しつつ、展示物やこどもの姿などから、具体的なエピソードや興味・関心を寄せた活動、四季折々の自然に触れ、こどもたちがやりたいことに取り組み、毎日来なくなる園を目指していることを伝えている。また旬の食材を使った食事のこだわりやアレルギーの対応、看護師の常駐なども説明し、保護者の不安や疑問にも丁寧な回答を心がけている。系列園と合同の通園バスに乗っての見学ツアー、さまざまな軽食を味わってもらいつつ行う相談会も実施している。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>保護者に利用開始にあたっての重要事項を説明し、同意確認を行っている</p> <p>入園を検討する方々には入園説明会や「バス見学ツアー」、入園個別相談会など多様な機会を通じて、保育・教育の方針や大切にすること、利用にあたっての重要事項を説明するほか、認定区分に応じ、入園決定者への説明会と入園前健診等を行っている。また、面接の際に保護者からの質問に答えたり、補足の説明を行っている。入園式後には「しぜんようちえんのすごしかた」をもとに一日の流れや準備物、保護者へのお願いごと、健康面の配慮事項や依頼、食事に関する事項等を保護者に説明している。重要事項説明に関する書面による同意確認もなされている。</p> <p>個別状況の把握とそれに応じた支援に努め、利用終了後の関係継続を図っている</p> <p>こどもの成育歴や健康・発育等に関しては、保護者の記入した書類の確認や面接時の聴き取りなどで把握している。面接の際には保護者の気になる事項や心配な点などを聴き取るほか、アレルギーや健康面の個別配慮が必要なケースは専門職が同席し、園での具体的な対応等を確認している。これらの情報を担任に引き継ぎ、入園後も保護者と連携を図りながら、その子の特性や状況を再度把握し、支援に活かしている。利用終了後の関係継続への配慮として、学童一時保育や各種イベントの受け入れ、「卒園児の集い」の開催など、さまざまに取り組んでいる。</p> <p>入園後の暮らしで、こどもが安心できるよう、寄り添った関わりと支援を行っている</p> <p>入園後はこどもにとって新たな環境での暮らしや人との関わりとなるため、年齢や個々の状況に応じ、徐々に保育時間を延ばしていく支援を行っている。また、その子の心の拠り所となるようなお気に入りのタオル等があれば一定期間で持ち込み可能とするほか、コーナーに興味のある玩具・教材等を準備し、好きなものを選んで遊べるようにしたり、こどもの不安等を受けとめながら、気持ちに寄り添った関わりと支援を行っている。保護者との関係構築や不安解消に向け、認定区分や送迎方法の違いを考慮した方法で、こどもの園での状況を伝えられている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>入園前からその後の園生活まで、こどもの成長・発達の把握と記録に取り組んでいる</p> <p>入園前の個別面談や保護者記入の「児童票」等の書類を通じて、こどもの発達や家庭状況等の保育に必要な情報を確認している。身体的な成長は、毎月身体測定を実施して記録し、結果を保護者と共有している。また心身の発達やこどもの興味などの状況を継続的に記録しており、満3歳までは毎月個人別の指導計画、3歳以上児については、写真と文章で一人ひとりのエピソードの記録「ポートフォリオ」を作成している。このほか、遊びの中で学んだことや子どもたちの様子などについて、学期ごとに写真と文章でまとめる「いきいき」も作成している。</p> <p>全体的な計画をもとに長期・短期の指導計画を作成し、実践に活かしている</p> <p>教育・保育の内容に関する全体的な計画には、事業の目的や教育・保育方針、年齢別の教育・保育の目標、年齢別のこどもが経験する事項、食育の推進、インクルーシブ保育などに関する考え方や方針等を記載しており、毎年度見直す仕組みとしている。この計画をもとに4期で構成する年齢別の年間指導計画を策定しており、短期的な指導計画へと展開して実践している。計画は周期ごとに振り返りを行い、次の計画につなげることとしている。教育・保育の指導計画に加え、食育や保健に関する計画も作成している。</p> <p>個人別の指導計画を作成して援助に活かし、教育・保育の目標等を保護者に伝えている</p> <p>集団としての指導計画に加え、1・2歳児に対しては月ごとに個別保育計画を作成し、個別の配慮が必要とされる点や、その月の振り返りをもとに次月の課題などを定めている。職員会議や学年別の会議等では、こどもの様子の共有のほか、指導計画の内容検討などを行っている。日々の活動の様子やこどもの体調不良・ケガなどの情報は、終礼で共有している。年度当初の保護者会では、全体的な計画・年間計画を保護者に配付するほか、毎月の学年便り・園便りには当月の目標を記載するなど、教育・保育のねらいを保護者に伝えている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報の取り扱いを保護者に明示し、こどもの羞恥心・自尊心への配慮に努めている</p> <p>重要事項説明書には、個人情報の利用目的や事前の同意を得ることなく第三者提供を行わない旨などを明示し、入園時に保護者に説明しており、関係機関との連携などで情報提供が必要となる場合には、そのつど同意を確認している。またこどもの羞恥心・プライバシー等への配慮として、出入口付近のこども用トイレの入口にはカーテンを設置し、着替えの際にも衝立等を使用して外からの視線を遮るようにしている。活動の中で、こどもが恥ずかしさを感じるような場面では、こどもの心情への寄り添いや自尊心を傷つけない言葉がけや関わりを心がけている。</p> <p>取りこぼしのない細やかな支援を目指し、多様な家庭状況を踏まえた配慮を行っている</p> <p>園に関わるこども・保護者で困っていることがあれば、取りこぼさずに支援することを目指し、各家庭の状況を踏まえた細やかな支援に努めている。外国籍の方にはジェスチャーや簡単な英語等の言葉を用いてコミュニケーションを図ったり、各家庭の習慣・食事や価値観など多様性を踏まえた配慮を行っている。また虐待防止マニュアルを各職員に配付したり、職位・職種に応じて保護者支援の研修を受講し、会議にて共有するほか、地域ネットワーク会議への出席と情報交換を図り、その内容を職員会議にて共有するなど、個人及び組織内での理解を深めている。</p> <p>理念・方針をもとに、こどもの意欲を広げ、応えてゆく教育・保育の実践に努めている</p> <p>基本理念「いきいき」と保育方針「こども中心」を掲げ、一人ひとりを尊重するとともに、理念・方針を確かめ合い、こどもたちの意欲をひろげ、応えていく保育・教育の実践に努めている。他市の発行した人権擁護のチェックリストを用いて各自での振り返りを行い、ケースに応じた対応方法のポイントを再確認するほか、国の不適切保育のガイドラインの読み合わせと園のマニュアルを配付したり、こどもの自己有用感を高める100の言葉かけ例をもとに職員間で話し合いをするなど、こどもの意思や人格の尊重に向けた研鑽と意識共有を図っている。</p>		

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(000)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(00)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリー6の講評	
職員の心得や危機管理等のマニュアルの整備と、委員会での研鑽を行っている 事故防止・発生時対応、食物アレルギー・虐待防止・バス運行等の危機管理のマニュアルを整備し、事務室内での閲覧に供したり、アレルギーやケガの応急処置など必要なものは掲示等でいつでも活用できるようにしている。法人共通の「すごしかた(職員用)」には児童憲章や基本理念・方針、身だしなみ・守秘義務や社会人としての心得等をまとめ、入職時に配付と説明を行っている。正規・準正規職員は5つの分野の委員会に所属し、外部との連携や研鑽、内部での学び合いや検討などを重ねながら、日常の教育・保育の実践や業務の遂行などに活かしている。	
法人及び園における仕組みについて、必要に応じて見直しや改善に取り組んでいる 法人全体の書類様式や重要な仕組みなどは、コーディネーター以上の職員が法人内の会議で意見交換を行い、適宜更新している。また行政のガイドラインや通知、内外の事例などを踏まえ、園での対策やマニュアルの見直しを行うこととしており、重要事項説明書や「しぜんようちえんのすごしかた」等の入園関連書類については、年度ごとに内容の確認と必要箇所の見直しを行っている。行事後のアンケートや第三者評価受審時の利用者調査等で把握した保護者の声や、定期的に行う自己評価・学校評価なども、運営や保育に関する課題検討の参考としている。	
看護師等による安全・衛生面の研修を行い、所定の業務の着実な実行に努めている 園内研修では、バス内・園外・園内などのさまざまな場所で、事故やケガが発生したケースを想定し、その対応方法について看護師から指導するほか、嘔吐処理の手順と留意点を知らせたり、消防署員を招いたAED使用と心肺蘇生の訓練を実施している。また会議において、SIDSや水遊び、不適切保育などの注意喚起をしたり、内容によってマニュアルの確認をしている。定められた事項の着実な実行に向け、園外活動・散歩・バスの乗降などの際には人数確認をしたり、清掃・SIDSなどはチェック表を用いるなど、さまざまな対策を講じている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>こどもの興味・関心や発達段階を踏まえた環境構成の工夫に努めている</p> <p>園の特色ある保育として、「やりたいを広げ、深める体験保育」を掲げており、その実践として多種多様な活動を行っている。こどもの「やりたい」を実現できるよう、日々の終礼や職員会議、学年会議での情報共有や、保護者との対話や面談などを通じて、こどもたちの興味・関心や発達段階の把握に努めており、把握した情報を踏まえた環境構成の工夫を行っている。またこどもの活動や興味・関心の広がりや図式化した展開図「ウェブマップ」を作成し、保育者がとらえたこどもの発想や意欲を、活動や環境構成に反映させる工夫にも取り組んでいる。</p> <p>異年齢での関わりを深め、年上・年下同士のさまざまな育ち合いを促している</p> <p>朝夕の時間帯や園庭、散歩などでは、異年齢のこどもたちの関わりが持たれ、自由な遊びが展開されており、訪問当日にも、異年齢のこどもたちが園庭で思い思いに遊ぶ様子が見られている。こどもの育ちとして、遊びを共有することで、年下のこどもが年長児のまねをして遊びの広がりが促されたり、年上のこどもが関わる中で頼られることで、親切心やいたわりの気持ちが生まれ、自信につながっている。また保育者はこどもへの援助にあたり、年上児に衝突の危険や、年下児ができないことをまねてしまうことがあることなどにも留意するよう努めている。</p> <p>子ども同士のトラブルや発達の特性に応じた援助では、個々の状況に応じて行っている</p> <p>子ども同士のトラブルへの対応では、保育者が両者の気持ちを汲み取り、言葉の理解などに応じて代弁や仲立ちなどの援助を行っており、自分たちで話し合える場合には、見守ることも大切にしている。特別な配慮を必要とするこどもへの対応では、専門機関との連携を図るほか、保護者と職員、職員間の情報共有を密にし、個々の特性に応じた援助を心がけており、こどもたちの状況を踏まえつつ、発達相応の体験を保障できるよう誘いかけている。年長児については、保護者とともに「就学支援シート」を作成し、就学への円滑な接続に努めている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時の会話や連絡アプリの活用などにより、保護者とこどもの状況を共有している</p> <p>登園時には受け入れを担当する職員が視診を行い、こどもの健康状態を確認するほか、家庭でのこどもの様子等は保護者との会話のほか、アプリの連絡帳に入力された情報により把握している。視診によって把握したこどもの状況や保護者からの伝達事項については、伝達用の記録簿「日々の報告」に記載し、関係職員間で共有している。日中のこどもの様子等もアプリ連絡帳によって保護者と共有するほか、お迎え時にはこどもの様子を、エピソードを添えて伝えるようにしている。また、必要があれば電話で連絡するなどの対応も行っている。</p> <p>生活能力の獲得や定着に向けた援助は、こどもの身体機能や意欲を踏まえて行っている</p> <p>排せつの自立や衣服の着脱、手洗い等の清潔に関する意識や所作、食具の使い方、片づけなど、生活能力の獲得や習慣の定着への援助は、こどもの身体機能の発達や意欲・興味を踏まえて、生活と遊びの中で身につけられるよう、保健指導や食育指導とも関連づけながら援助している。保育者が一緒に行ったり、手本を示したりするほか、こどもに意欲が見られる場合には、見守りながらさりげなく手伝い、成功体験を重ねながら身につけられるようにしている。習慣の定着に向け、問いかけたり、時には皆で考える時間を設けたりする配慮にも努めている。</p> <p>休息はこどもの体力や生活リズムを踏まえ、必要に応じて取れるようにしている</p> <p>休息はこどもの体力や生活リズムを踏まえ、必要に応じて取れるようにしている。1歳児クラスにおいては、年度前半と後半で食事や睡眠のリズムが異なるため、デイリープログラムをこどもの状態に合わせて変えているほか、食事中に眠たくなるこどもがいる場合には、口の中の安全を確認したうえで寝られるようにしている。午睡は3歳児まで取っており、入眠の際は、個々の好みやリズムを踏まえて、トントンしたり、さすったりして安心して眠れるようにしている。4歳児からは眠たい場合を除き、基本的に午睡を取らず、活動の時間としている。</p>		

<p>3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している</p>		<p>評点(〇〇〇〇〇〇)</p>
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<p>評価項目3の講評</p>		
<p>こどもの興味・関心を起点とした活動の展開に向け、環境や援助の工夫に努めている</p> <p>こどもの興味を起点とした主体的な活動を大切にしており、「サークルタイム」などで対話の時間を設けるほか、図鑑や道具、素材を自由に使えるようにしている。幼児クラスでは今年度、生き物・砂と自然・竹と音・野菜をテーマにした異年齢のチームによる活動を展開しており、生き物のチームは虫捕りの罠を調べて作り、砂と自然のチームでは砂を使ったアートを楽しんでいる。こどもたちが体験を通じて知識や知恵を獲得できるよう、援助の際には、大人が先回りして体験を奪わないよう配慮しつつ、きっかけ作りや情報の提供等に努めている。</p> <p>専門家との体験ややり取りを通じて、こどもたちの興味・関心の幅が広がっている</p> <p>「ゲストティーチャー(外部の専門家)」によるさまざまな体験の機会を設け、こどもたちの興味・関心の幅を広げている。身近な自然に関する知識を伝え、興味を促す「いきものじかん」、さまざまな描画表現を楽しむ「あーとのじかん」、素材を使って創作ワークショップを行う「ひろがりのじかん」、里山で自然を使った遊びを楽しみ、危険回避の力を育む「しぜんのじかん」、寺院で茶道に親しむ「なごみのじかん」、さらには食農体験や「こどもヨガ」など、多様な体験の提供に努めている。</p> <p>性質の異なる複数の園庭を活用し、さまざまな遊びや活動を展開している</p> <p>性質の異なる複数の園庭があり、飼育するポニーの名前に由来する「ドリーひろば」には、ツリーハウスや砂場、ウッドデッキを設け、ウッドデッキではボール遊びなども楽しめるようになっている。「もぐもぐひろば」や「どんぐりのもり」は雑木林の中にあり、新緑・紅葉・落葉や季節ごとに結実する果実から季節を感じたり、秘密基地を作ったりするほか、鳥の観察をして巣箱をかけたり、カブトムシやクワガタを捕まえて飼育したりしている。こうした豊富な自然環境を活かしたさまざまな遊びや活動を展開し、こどもたちの豊かな感性を育てている。</p>		

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>季節の伝統行事などを通じて文化・伝承を体験し、誕生会では成長を喜び合っている</p> <p>季節感のある行事の際には、兜や五月人形・鯉のぼり、笹飾り、お月見団子とススキ、節分の柊とメザシ、雛人形などの行事の象徴物を飾りつけて、雰囲気盛り上げている。行事の意味や込められた願い、物語を伝え、歌を歌い、短冊に願いを書いたり、どんど焼きを行ったりするほか、七草粥などの行事食も提供し、文化や伝承を体験できるようにしている。また隣接する寺院とも交流があり、お寺の行事や境内の自然に触れ、情操や感受性を養っている。毎月の誕生会では、誕生月の保護者にも参加してもらい、一つ大きくなったことをみんなですべて祝っている。</p> <p>子どもたちの多様な園での営みを、「しぜんものがたり」を通じて保護者と共有している</p> <p>子どもたちが興味をもって取り組んできたことを保護者に発表する「しぜんものがたり」では、子どもたちが主体的に話し合って発表内容や方法を決めており、充実感や達成感もたらされている。動物への興味から博物館と動物園に出かけた子どもたちは、展示から刺激を受けて骨への関心が高まり、骨格を粘土で作って展示し、保護者に説明している。また乾物に興味を持った子どもたちは、乾物屋に買い物に出かけ、味比べを体験しており、当日は活動の経過や感想を発表し、だしをとって味噌汁を作り、保護者に飲んでもらっている。</p> <p>保護者参加の行事や子どもの好奇心を刺激するような行事をさまざまに行っている</p> <p>上記のほか、日頃の自然遊びを楽しむ「どんぐりもりでつながろう」や、園舎内やひろばなど園のすべてを使って、子どもたちがアクティビティを考え、親子で楽しむ「だいちでどん・おやこでどん」など、保護者参加の行事を実施し、子どもの姿や成長を共有している。また生き物の観察を楽しむ「よるのいきものじかん」、ランタン作りや迷路を楽しむ「よるのようちえん」のほか、バイオエネルギーセンターに出かけてゴミ処理やリサイクルについて学び、博物館・動物園にも出かけるなど、知的好奇心への刺激となる行事をさまざまに行っている。</p>		
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>在園時間が長くなるこどもの健康面・情緒面への配慮に努めている</p> <p>在園時間が長くなるこどもが健康的に安心して過ごせるよう、保育室の各所にソファやクッションなどを用意し、家庭的な雰囲気の中でくつろげるようにしている。熱中症を防ぎ、心身のリフレッシュを図ることができるよう、水分補給はいつでもこどもの希望に応じて行えるようにしているほか、夕方にも園庭に出て身体を動かすことができるようにしている。またこどもの降園が続いて寂しくなってしまうなど、情緒面に不安が見られる場合には、保育者がスキンシップを図ったり、1対1で対応したりするなど、安心感が得られるような関わりに努めている。</p> <p>1・2号認定の活動内容に差を設けず、こどもが安全に過ごせるよう配慮している</p> <p>概ね10～14時の教育時間では、教育・保育認定区分による活動内容の差は設けず、どちらの区分の子も同じクラスで活動するようにしている。標準時間終了後の時間帯は、なるべく毎日同じ職員が担当するようにしており、日中の様子がわかる職員をこの時間に配置し、遊びに継続性を持たせられるよう工夫している。合同保育になる時間帯では、発達異なるこども同士が安全に過ごせるよう、玩具の大きさに配慮するほか、年上児には危険を回避できるよう注意を促している。また18時10分からは補食を提供し、空腹によるストレスの軽減を図っている。</p>		

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>さまざまな料理を楽しく体験できるように、献立や雰囲気づくりの工夫に努めている</p> <p>献立は2週間で1サイクルとして、ひと月に同じメニューを複数回体験できるようにしている。また郷土料理や行事食、国際食を採り入れるほか、絵本の料理を再現した「ものがたりメニュー」や誕生会の特別メニューなど、食事を楽しめるよう工夫している。味覚の基礎を育めるように、味つけは薄味を基本とし、だしを効かせ、素材の味や風味を活かしている。また食事は丸テーブルを囲み、楽しい雰囲気ですべられるようにしており、好天時には園庭に出て食べることもある。苦手な料理は無理強いせず、味わうきっかけとなるような働きかけを心がけている。</p> <p>食物アレルギーや宗教的な背景に応じた食事の提供に取り組み、安全対策を講じている</p> <p>食物アレルギーのあるこどもについては、管理栄養士との面談のうえで具体的な対応を決めている。料理に含まれるアレルギー食材にマーカーで色づけした献立表を毎月保護者に配付して確認をとり、提供の際は専用の食器を使用し、配膳の順番や着座の位置を工夫するほか、提供までの各段階で複数職員による内容確認を行うなど、誤食事故を防ぐための対策を講じている。文化的・宗教的な配慮を要する場合にも、保護者と認識を共有したうえで対応食を提供しており、園での提供が難しい場合には弁当を持参してもらうこととしている。</p> <p>こどもの食への意欲や関心を育み、知識を伝えるさまざまな活動を行っている</p> <p>園庭で収穫した木の実を使ったジャム作りや、梅干しや味噌などの保存食作りのほか、うどんやクッキーなどさまざまな調理体験の機会を設けており、幼児クラスでは、マッシャーや包丁などの調理器具も使っている。栽培活動はプランターで行うほか、地域住民の協力を得て、畑で人参や大根などの収穫もさせてもらっている。また食事の際には、食材や料理の名前を伝えたり、栄養素に関する知識を教えたりするほか、3歳児からは箸の持ち方や食器を置く位置について栄養士が指導するなど、食への意欲や関心を育み、知識を伝えるさまざまな活動を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>こどもたちが暮らしの中で健康への意識や生活習慣を身につけられるよう支援している</p> <p>こどもが暮らしの中で手洗い・着替え・水分補給をしながら、健康的な習慣を身につけている。また年齢や状況によって大人が問いかけたり促したりしてこども自身が気がつけるようにするほか、視覚的にわかりやすいよう、写真を用いて手洗いの手順を示し、確認できるようにしている。看護師の保健指導が手洗い・プライベートゾーン・「ちくちく・ふわふわ言葉」等の内容で行われており、イラストやクイズ等の工夫を凝らし、より興味・関心が高まるようにするとともに、対話や問いかけからこどもが考えることで、それぞれの理解が深まるようにしている。</p> <p>身近に潜む危険を知り、こども自身が気をつけ、回避できるよう、多様に取り組んでいる</p> <p>自然豊かな環境での遊びを通じ、身体バランスや体力増進等につなげたり、触れてはいけない虫等を知らせるなど、遊びや生活の中でこどもの危険を回避する力を育てている。散歩時には交通ルールや車から避けることなどを伝え、定期的な火災・地震の発生時の訓練では身の守り方や避難の方法などを学んでいる。また送迎バスの利用時に閉じ込められた場合にこどもが周りに知らせることができるよう、クラクションを押す訓練にも取り組んでいる。さらに不審者訓練を大人と一緒に体験したり、就学に備えた交通安全・防犯に関する話を聴く機会を設けている。</p> <p>専門家のもとでこどもの健康の維持・管理を行い、保護者との連携も図っている</p> <p>園医による健康診断や歯科検診が行われており、発育状況や健康状態などを確認・記録している。保護者には所定の様式で結果を知らせており、園で行う身長・体重の測定結果についてもアプリで共有している。日中のこどもたちの体調不良やケガ等の際には看護師と連携したうえで対処するほか、保護者への連絡や医療機関の受診なども行っている。保健便りを通じて、感染症やこどもの健康管理・維持に関する情報を提供している。また園内で流行した感染症があれば、感染症名や人数に加え、関連する情報などについて、保護者への周知を図っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
---	--	-----------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

保護者の子育てパートナーとして、こどもの育ちや様子の共有に努めている

保護者と職員が子育てパートナーとして、子どもを通してつながり合う仲間となることを大切にしている。学期ごとでこどもの育ちをまとめた「いきいき」、日頃のこどもの様子を写真とともにまとめた「ポートフォリオ」等はアプリを通じて、園からの発信だけでなく、保護者からもコメントをもらうことで、双方向のやり取りができるようにしている。また、クラスの活動の様子等を伝える「ドキュメンテーション」も保護者と共有している。保護者会では年間の方針やこどもの様子等を知らせたり、写真や動画を用いて園の暮らしとこどもの様子を伝えている。

保護者にこどもの暮らしや活動などの体験と、保護者同士の交流の機会を提供している

上記に加え、「オープン保育」として1週間程度の期間で、こどもの暮らしの様子を見たり、保護者に実際に体験してもらえる機会を提供するほか、誕生会ではこどもの誕生月に保護者に来園してもらい、幼児は午前中に給食を、乳児は午睡後におやつを、それぞれ一緒に食べる機会を設けている。さらに「おやこでどん」「どんぐり森でつながろう」等の主要な行事は土曜日に設定し、こどもの遊び・食事・制作などといった日頃の興味・関心や心を寄せるもの、多様な活動を一緒に体験しており、これらの中で親子や保護者同士の関わりが持てるようになっていく。

各家庭の状況等を把握し、ありのままを受けとめ、寄り添った支援と配慮を行っている

日頃の会話、電話や連絡アプリでのやり取り、個人面談を通じ、子どもに関することを伝えるとともに、保護者の意向や家庭での状況等を聴き取り、園での個別の配慮に活かしている。保護者会では自己紹介と顔合わせを行うとともに、保護者の困りごとや悩みを共有・共感しながら、子育ての一助となるようにしている。各家庭の就労の有無にかかわらず、寄り添った配慮ができるよう、預かり保育や延長保育、土曜日保育等の利用を可能とするほか、発達等で心配があれば併設する児童発達支援施設との連携を図るなど、シームレスで細やかな支援に努めている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>ゲストティーチャーとの連携を図り、こどもの体験を通じた学びと深まりにつなげている</p> <p>こどもたちの“やりたい”を広げ、深める「体験教育」として、アート・しぜん・こどもヨガ・生き物・畑など、地域の「ゲストティーチャー」との連携を図っており、専門的な話を聴いたり、教え教わるという関係性を超えてともに楽しみながら、遊びと学びを深めている。自然の散策や生息する生き物の観察、素材を用いた遊びをしたり、多様な素材を用いた表現活動、身近な変化やエコを意識した活動のほか、ヨガや茶道を体験したり、食物の栽培や収穫などに取り組んでおり、これらの実体験がこどもたちの視野の広がりや学びの深まりにつながっている。</p> <p>地域資源を活用しながら、人との関わりややり取り、新たな発見などを楽しんでいる</p> <p>市内のバイオエネルギーセンターに出かけ、ゴミ処理の過程を見せてもらったり、資源やエコに関する話を聴くほか、園に中身が見えるゴミ収集車を乗りつけてもらい、その仕組みや動きの不思議さや発見を楽しんでいる。近隣の自治体の方が花の入れ替えをする際に、こどもたちがその花をもらって押し花にし、それをプレゼントするといったやり取りを交わしている。また近隣の木材屋に飼育するポニー等に必要となるおがくずや、制作等で活用する木の端切れをもらったり、近隣の工事現場の様子を見に行くなど、地域資源を活かした多様な活動を行っている。</p> <p>こどもの知的好奇心や探究心から展開された活動がさまざまに行われている</p> <p>こどもたちが興味を持ったことや探究したいことがあれば、そこに足を運び、実際に聞いたり見たりする機会を積極的に設けている。一例として、電車の興味から実際に乗車する機会を設け、駅員の方に日頃からのこどもの関心事や疑問などを聴いたりするほか、隣接する寺院のカフェに出向き、コーヒーの香りをかいだり、コーヒー豆に関する話を聴いたりするなど、地域にある環境やそこに住まう身近な人たちを通じて、こどもたちの知的好奇心や探究心などを刺激し、高めるとともに、そこから活動や体験を充実させてゆく、さまざまな営みがなされている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	さまざまな活動を通じて、こどもたちの季節やその移ろいを感じる感性を育てている	
内容①	園内の複数の園庭には多種類の樹木があり、新緑や紅葉、ドングリ、柿やレモンなどの果実がこどもたちに季節の移ろいを伝えている。これらの樹木には野鳥や昆虫が集まっており、ウグイスやモズ、カブトムシやクワガタなどの生き物の訪れや、氷や霜柱などの自然現象などからも季節に触れている。また栽培活動では種まきや収穫の時期を体験を通じて学んだり、端午の節句や七夕、お月見、節分などの日本の伝承行事での取組、熱中症や冬季の感染症の予防などの保健指導など、その季節ならではの取組や学びを通じて、季節を感じる感性を育てている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している
タイトル②	多様な体験を通じて、危険から身を守る力を身につけられるよう支援している	
内容②	警察・消防・市等との連携を図り、歯磨きや交通安全の指導、災害・不審者の訓練を行ったり、地域のボランティアの方を招き、5歳児を対象として、就学に向けた防犯と交通ルールを人形劇等で教えてもらうなど、地域資源も活かし、こども自身が身を守ることを学べるようにしている。またこどもの身の回りから危険をすべて排除するのではなく、起伏や自然物に富む園庭、外部の専門家を招いての自然体験など、こどもたちが日頃の園での生活の中で、危険に自ら気づき、ケガ等を防ぐ感覚や知恵を経験から学べるよう、環境・活動の多様な工夫もなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	園の資源を積極的に地域の未就園世帯に提供し、多彩な取組で子育てを支援している	
内容③	「はつはなひろば」と題した子育て支援では、自然豊かな園庭の開放のほか、調理体験や歯の健康・いやいや期などの育児に関するテーマ、親子で楽しむ刺繍やしめ縄作り・塩キャンドル作りなど、多彩な内容の育児講座、出前保育や給食体験「しぜんランチ」、都の事業を活用した防災教室など、さまざまな内容を毎月実施している。また法人内の他園と共同で子育て家庭の交流の場や各種イベントを提供する「おやこつながりくらぶ」、園内のみならず市のイベント等でも行う一時保育、忠生地域の「こどもまつり」での制作体験など、多様な取組を行っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然物豊かな変化に富んだ園庭や、周辺の里山の環境を活用したさまざまな体験の機会を設けている
	内容	園庭「もぐもぐひろば」や「どんぐりのもり」は雑木林の中にあり、こどもたちは新緑や紅葉、ドングリや果実などを通じて季節の移ろいに触れており、秘密基地を作ったり、鳥を観察して巣箱をかけたり、カブトムシ等を採集して飼育するなど、自然物を活かしたさまざまな遊びや活動を展開している。また「ゲストティーチャー（外部講師）」のもとで里山の自然を活かした遊びを楽しみ、危険回避の力を育む「しぜんのじかん」、体験を通じて身近な自然に関する知識を伝え、興味を促す「いきもののじかん」、食農体験など、さまざまな機会を設けている。
2	タイトル	こどもの興味から始まる主体的な活動が、知識の獲得や心の成長、次の関心への広がりにつながるなど、豊かな学びのサイクルが営まれている
	内容	こどもたちの身近なものや体験をきっかけとした興味から始まる活動の中で、探求や創意工夫の過程が、文字の習得や、調べ方や道具の使い方、素材の性質などの学び等、知識や知恵の獲得を促すとともに、一人の興味周りのこどもたちに広がり、協力が葛藤を体験する機会となるなど、豊かな学びのサイクルが営まれている。保育者は活動の過程でこどもが体験する前に知識を伝えてしまうのではなく、話し合いの時間を設けて問いかけをしたり、一緒に調べたりするなど、こども主体の活動を支えるきっかけ作りや情報提供等の援助を心がけている。
3	タイトル	「食べる」がもっと楽しくなる」をスローガンに多彩な食育活動を提供し、体験からこどもの食への意欲や関心を高め、知識を伝えている
	内容	食育は特別な行事やプログラムではなく、常にこどもたちの生活とともにある「営み」の一つであるとの基本姿勢のもと、栄養士と教育・保育の職員が連携を図りながら食育計画を作成し、実践に反映させている。日々の食事では多様な食材・料理を体験できるメニューとし、楽しく食べるための雰囲気づくりや、食事を通じた食文化やマナー、食と健康の関係等の学びにも配慮している。また園庭の果実を使ったジャム作りや梅干し作り、収穫したジャガイモをピザ窯で焼き、味わう体験など、園の生活環境・生活体験と結びついた取組もさまざまになされている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	各種の計画・記録について、全体像を俯瞰しながらさらに検討し、最適化とその効果としての現場の省力化につなげることも一考されたい
	内容	こどもの興味・関心や心の動きなどをとらえ、各種の記録を行うとともに、アプリを活用して保護者に共有するほか、長期・短期と個別の支援計画などを作成している。訪問調査時にはこれらの記録等の充実とともに、その負の側面としての内容や意図などの重複・類似など、整理や効率化、ICTのさらなる活用などの検討の余地も見られている。計画と記録について全体像を俯瞰し、それぞれの作成の意図や必要性などを検討し、最適化を図ることも一考されたい。取組は後述の現場の労働環境面の課題の解決にも寄与すると思われ、進展と成果獲得が期待される。
2	タイトル	注力するヒヤリハットの検証と共有に加え、発生した種々の事象についても、同様に安全向上や現場の啓発に活かす工夫を期待したい
	内容	起伏や自然物がそこかしこにある園庭、専門家を交えた自然体験など、こどもたちが体験から安全への感性を培える環境を整えるとともに、そうした活動・環境の中で把握した種々のヒヤリハットを毎日職員間で共有し、担当委員会による集計・分析も行っている。一方、発生したケガについては、現場が事象の軽重を問わず、原因・対策や防げた・防ぎ得なかった等を考える習慣の徹底を図るうえで、記録・共有の仕組みの再考や、ヒヤリハット同様の事例の集積と分析など、さらなる工夫の余地も見られる。現場の負担にも配慮しつつ、検討することを期待したい。
3	タイトル	組織として方向性を共有し、働く場としての各職員の自園への帰属意識を高めるべく、現場との相互理解を深めることが期待される
	内容	職員自己評価では園の教育・保育について、現場の共感や矜持をうかがわせるさまざまな肯定的な声が寄せられる一方、労働環境面などには課題が示されている。経営層は、職員のライフステージの変化による休暇取得などの体制への影響、いわゆるノンコンタクトタイムの取り方や業務の合理化・省力化などの実務面に加え、園・法人の今後の方向性と担うべき社会的使命についても、組織内で認識の共有をより深めたいと考えている。各職員の帰属意識をさらに高めるべく、さまざまな機会をとらえた啓発と個別の丁寧な対話を重ねてゆくことを期待したい。